

# 観光における自然保護と独自性の強化

## Preserving Nature and Strengthening Uniqueness in Tourism

浦本 寛 史<sup>1</sup>

URAMOTO Hiroshi

### 【要 約】

本報告は、2017年から2019年におけるプロジェクト調査「沖縄における島嶼経済の構造と自立に関する総合調査研究」の成果報告である。

沖縄県は東西約1,000km、南北約400kmの広大な海域に大小160の島々が点在する島嶼県であり、沖縄本島を除く37の有人離島に県人口の約9%を占める約14万人の人たちが住んでいる。県ではこれまで離島地域の活性化を図るため、各種の離島振興策を進めてきたが、経済、行政などの中心から離れた遠隔性や広大な海域に散在している散在性、さらに人口や市場の小さい狭小性といった条件が不利であることをあげている。

そこで本稿では、上記の条件と歴史的背景が似ている済州島（韓国）の調査（2018年11月）を実施した。さらに世界トップクラスの観光都市中国海南島（三亚市を中心に調査2019年11月）の観光振興策としてどのような取り組みが行われているか報告する。

また、この報告に先駆け、2017年に参加した「東アジア地域国際シンポジウム」の報告を行い、離島における観光産業を中心とした離島経済の新たな糸口を探ることとする。

### 【目 次】

1. はじめに
2. 東アジア地域国際シンポジウム参加
3. 済州島（韓国）
  - 3-1 基本情報
  - 3-2 マーケティングプラン
4. 海南島（中国）究極のリゾート観光をめざして
5. おわりに

#### 1. はじめに

本報告は、2017年から2019年におけるプロジェクト調査「沖縄における島嶼経済の構造と自立に関する総合調査研究」の成果報告である。

---

<sup>1</sup> 沖縄国際大学経済学部教授、huramoto@okiu.ac.jp

2017年、逢甲大学（台湾）にてプロジェクトチームとして「東アジア地域国際シンポジウム」に参加。東アジア5地域（東京、上海、ソウル、台湾、沖縄）が持ち回りで開催している国際会議について報告する。

さらに、観光振興にスポットをあて、とくに島嶼県沖縄の参考となる地理的不利を抱えながらも、成長・発展の著しい済州島（韓国）と世界トップクラスの海南島（中国）の取り組みを報告する。

本稿をとおして、東アジア地域と情報共有や経済連携を図り、観光立島として持続可能な離島経済の自立に向けた新たな糸口になることを期待したい。

## 2. 東アジア地域国際シンポジウム参加

2017年、逢甲大学（台湾）で行われた「東アジア地域国際シンポジウム」にプロジェクトチームとして参加。東アジア5地域（東京、上海、ソウル、台湾、沖縄）が持ち回りで開催している国際会議である。この国際会議は、経済学、経営学、政治学、国際関係論など多様な分野の学者、専門家、研究者が参加して、東アジア共通の経済問題、各国の課題について報告、討議を重ねることを目的とするものである。

今回のシンポジウムのテーマは、「アジア経済の発展について」。上海から上海国際問題研究院の呉寄南研究員による「上海の都市振興の新たな局面」、東京からは大東文化大学の永野慎一郎名誉教授による「東アジア時代と日中韓三カ国の役割」、そして沖縄からは本学沖縄経済環境研究所所長の名嘉座元一教授による「東アジアにおける沖縄観光の将来展望」が発表され、本プロジェクトチームからは筆者が代表して「石垣島を中心とした八重山諸島の可能性と挑戦」を発表した。

本プロジェクトでは、グローバル化が進展する中、産業化の過程でどうしても都市に人口が集中する現状は理解しつつも、そこから生じる地域間の格差是正を考えなければならない。従って、今後も東アジア地域の研究者との意見交換や研究を進め、学術的なネットワークの強化が必要である。本研究所の趣旨からも「東アジア地域国際シンポジウム」への参加・議論は意義があることであり、島嶼経済の独自性を打ち出せることが期待できる。

## 3. 済州島（韓国：済州島観光公社）

### 3-1 基本情報（キーワード：自然景観と都市活性化、移住）

日韓関係が悪化する中（2018年11月）、済州島への視察許可が出発3日前に出された。済州島は沖縄と同じ海に囲まれた島である。本国（韓国）とは異なる文化背景を擁し、さらに観光都市を目指す県として東洋のハワイとも呼ばれ観光地の自立発展型の構造を学ぶ上で重要な調査であった。

済州島は、2010年では57万7,000人余りの人口が2017年では66万人を超えた。沖縄の人口の約4.7割という人口だが、観光客数1.3倍の勢いで伸びている。その人口や観光客数増加に伴う

不動産投資や第2空港建設など大型工事がある。さらにヘルスケア都市構想を打ち出し、数多くの大規模開発が行われている。濟州島の人口増加は「濟州移民」とまで称され、純流人口の急増をまねいている。その理由として、世界遺産に登録されたことがあげられる。「自然景観と都市活性化」の取り組みが重なった結果で濟州島に対する国民意識が、単なる「観光地」から「魅力的な居住地」に変化したことが人口増加の大きな要因であると分析している。

観光公社が2014年に移住民292人を対象に実施した移住動機アンケートでは、図1のような結果が示された。

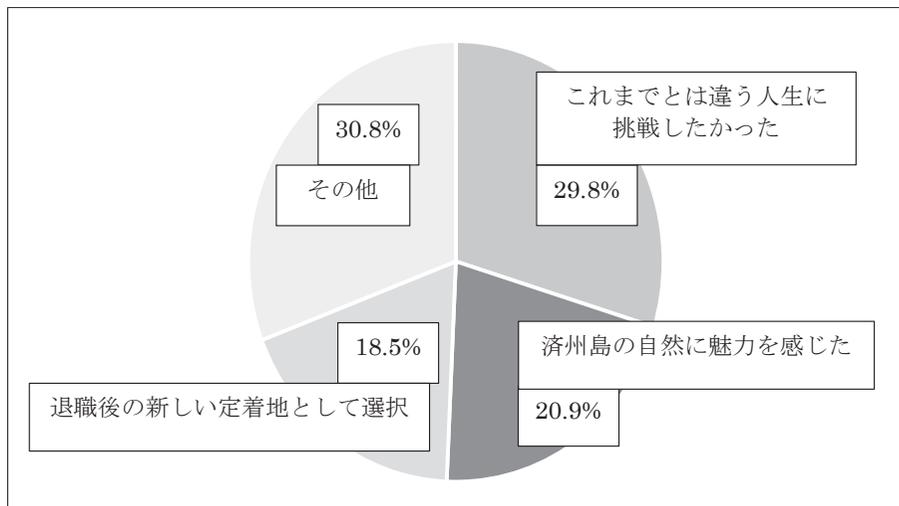


図1 移住の理由

出典：濟州島観光公社

沖縄県において、とくに離島、八重山でも戦後直後に移住ブームはあったが、その時の移住は開拓が目的であった。濟州島は観光地としての知名度は既に高く、今後、観光地の自立発展を図るために、「観光から移住へ」とシフトしていった。

濟州島観光公社では、濟州島を訪れた外国人を対象とした実態調査を行っている。濟州島は外国人が訪れる韓国唯一のノービザ旅行地（30日滞在180カ国）である。図2が示しているように、観光客の中でもリピーターの数が増加している。その内滞日数の増加も図3が示すように4.28日から4.79日と伸びている。沖縄県の資料でもリピーター率約85%、滞日数約3.89日である。滞日数が約1日少ないことが分かる。その滞日数の増加要因として、前述したように2007年に世界遺産に登録されたハルラ山の存在は大きい。また、図4の「旅行形態」では、85%近くが個人旅行で、ツアー旅行が減少しているのも特徴の一つである。図5の「1人当たりの支出経費」においても13万円前後であるのに対し、沖縄観光においては、消費額は平均8万円前後と低い。

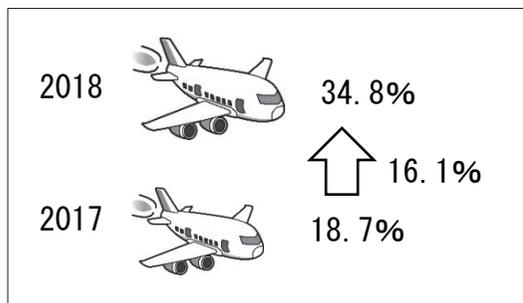


図2 リピーター率

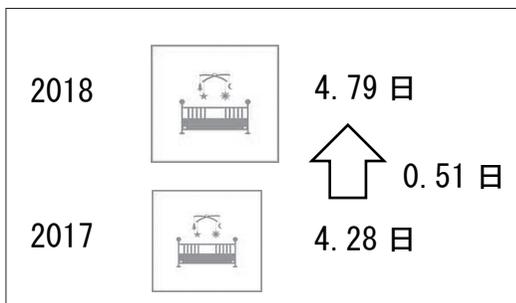


図3 滞在日数

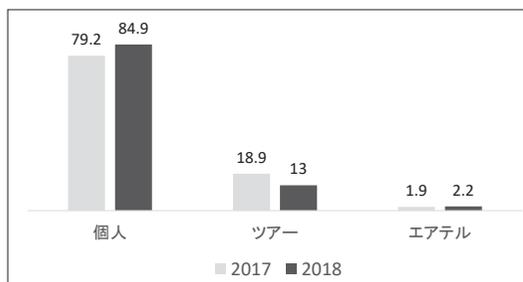


図4 旅行形態 (%)

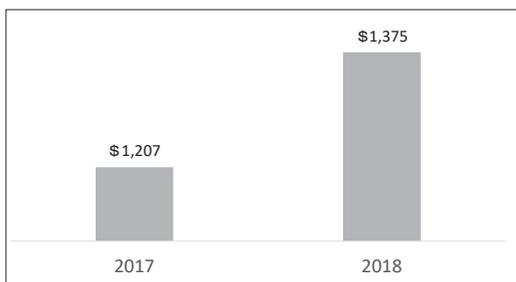


図5 1人当たりの支出経費 (\$)

さらに、図2～5を国別・地域別で見ると以下のような結果が示された(図6)。

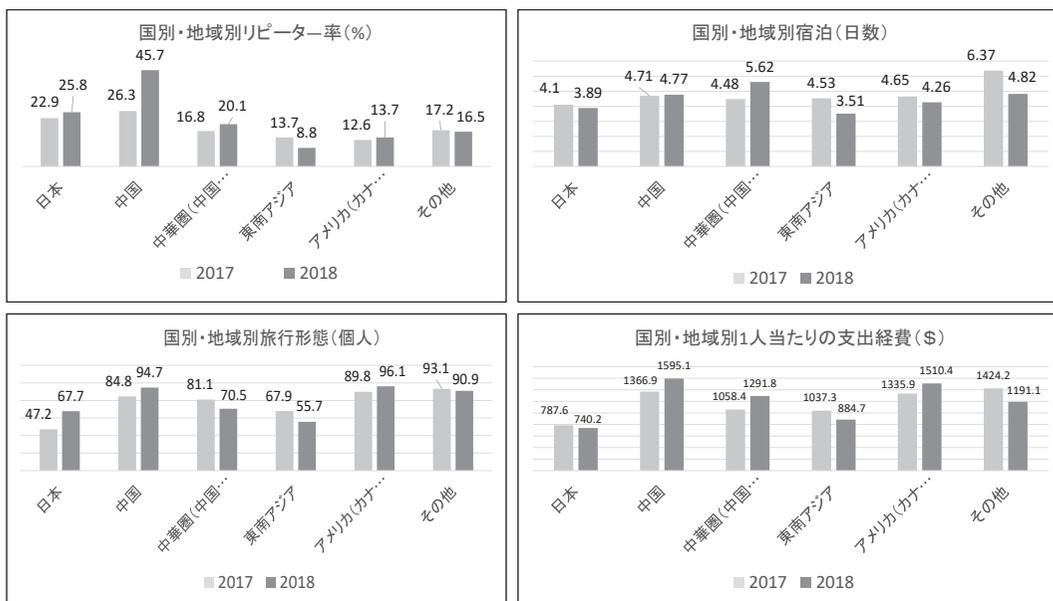


図6 図2～5詳細図

出典：濟州島観光公社

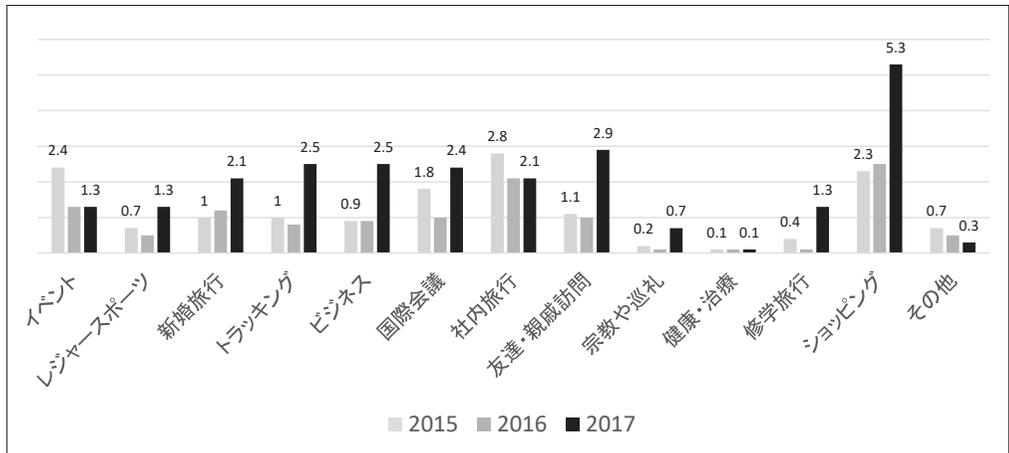


図7 旅行目的

出典：濟州島観光公社

旅行の目的分析資料によると、2017年度は「休暇」が最も多く72.5%である。

その次に図7が示しているように、ショッピングや友人・親戚訪問である。伸び率で見ると、トラッキングやビジネス、国際会議さらに修学旅行なども確実に伸びていることが分かる。特に、トラッキングにおいては前述したように2007年に世界遺産に登録されたハルラ山をはじめとする「済州の火山島と溶岩洞窟群」は壮大な景色と幻想的な溶岩洞窟は観光客を魅了している。

2017年度の「旅行満足度調査」では、図8が示した「満足している」と「とても満足している」が86.1%を占めている。年度別での満足度（5点満点）は、表1が示すように4.1点と高い評価ではあるがあまり変化は見られない。

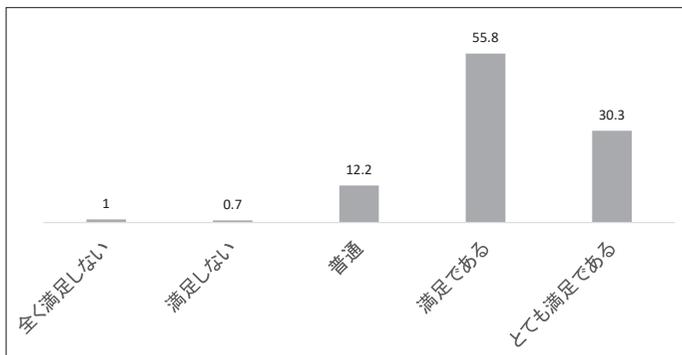


図8 2017年度旅行満足度

出典：濟州島観光公社

表1 2015年度～2017年度満足度

	2015	2016	2017
満足度	4.1	4.1	4.14

出典：濟州島観光公社

濟州島における産業構造構成比は図9が示すように、圧倒的にサービス業が占めており、行政・国防、そして建設業が続いている。濟州島においても、沖縄と同じようにサービス業に依存傾向があり、製造業の占める割合が小さいことが伺える。

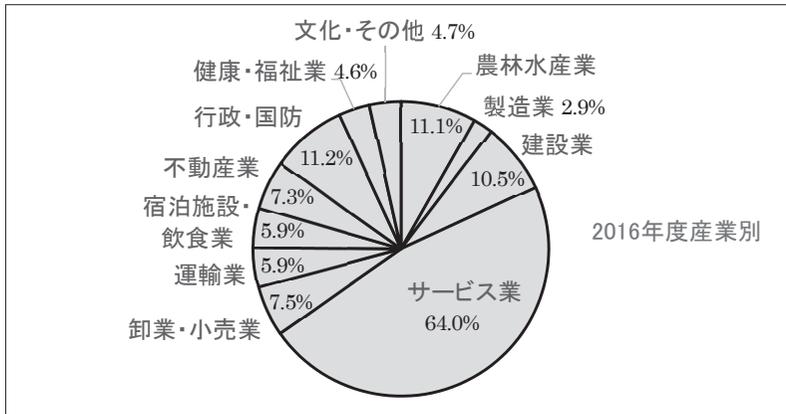


図9 2016年度産業別 (濟州島)

出典：濟州島観光公社

そこで、濟州島における産業構成比 (図9) と沖縄県全体と宮古島市、石垣市 (表2) を比較してみる。さらに、第三次産業比の就業者数の内訳を表3で示した。

表2 沖縄の産業構成比 (宮古島市・石垣市)

	宮古島市		石垣市		沖縄県全体	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
就業者総数	23,297	100	22,711	100	589,634	100
第一次産業	4,249	18.2	2,075	9.1	26,593	4.5
第二次産業	3,097	13.3	3,114	13.7	81,508	13.8
第三次産業	14,644	62.8	16,341	72.0	433,334	74.4
分類不能産業	1,307	5.7	1,181	5.2	48,199	8.3

出典：沖縄県企画部

濟州島では第一次産業 (農林水産業) では、全体の約11% (図9) に対し、沖縄県全体では表2が示すように、4.5%とかなり低いのが、宮古島においては18.2%と高いことが分かる。濟州島では、古くから独自の漁法が継承され、1980年代までは約30%を占めていた水産産業は、1997年頃から減少の一途をたどっている。

第二次産業 (製造業) においても沖縄全体では13.8%に対し、濟州島では2.9%と製造業の弱さが顕著に表れている。水産産業の減少から、それに関連する業者 (養殖業者や水産加工業) なども減少していった。

表3 沖縄の第三次産業比の就業者数

		宮古島市(総数：14,644)		石垣市(総数：16,341)		沖縄県(総数：433,334)	
		就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
主な第三次産業の就業者数内訳(構成比)	情報通信業	200	1.4	197	1.2	13,203	3.0
	運輸業	784	5.4	1,142	7.0	25,137	5.8
	卸売・小売業	2,744	18.7	3,093	18.9	81,924	18.9
	不動産業	306	2.1	442	2.7	12,219	2.8
	飲食店・宿泊業	1,848	12.6	2,817	17.2	45,897	10.6
	医療・福祉業	3,283	22.4	2,523	15.4	81,998	18.9
	教育・学習支援業	1,152	7.9	1,070	6.5	31,647	7.3
	公務	1,347	9.1	1,497	9.1	33,605	7.8

出典：沖縄県企画部

済州島では、投資活性化と観光業界の好調も移住ブームの大きな要因であり、人口増加に伴い、不動産価格が10年間で3倍近く高騰しており、韓国全土で住居価格が最も大きく上昇した場所として記録された。人口増加は、さらに交通渋滞やゴミ問題などを生みだし、生活廃棄物発生量も10年間で638トンから1,184トンまで増えている。

人口増加は喜ばしいことではあるが、第一次産業、第二次産業の衰退は観光産業に大きな影響を与えるので、今後の対策として地場産業の発展に取り組むようだ。

### 3-2 マーケティングプラン（キーワード：ポニータ・M・コルブモデル）

そこで、これまでの基本データからポニータ・M・コルブのマーケティングプランに当てはめて考察する。マーケティングプランの最も重要なポイントは、どんな特色とベネフィットを観光客や移住者へ提供できるかが鍵を握る。例えば：提供商品として①「歴史的重要な場所」においては、「国家的価値やアイデンティティ」の強化。②「娯楽の場所」は「日常生活にない興奮」、③「文化施設」は、「何処にもない品質の文化体験」、④遊園地「家族の一体感」などを提供商品とベネフィットをあげている。済州島観光を提供商品①「歴史的重要な場所」と言う観点から済州島の歴史は朝鮮史上、決して避けることのできない悲惨な過去を背負っている。この事件は国際問題として取り上げられ重要な議論が今なお続いている。韓国本土ではかつて済州島出身者であるとうことで異質な存在とされ差別された時代もある。そのこともあり、済州島では島の結束、アイデンティティへのこだわりは強い。②「娯楽の場所」として図6で示したように、2007年に観光ビザ免除もあり、韓国人のみならず、中国人観光客の急増し、日常生活にないエキサイティングな場所として体験型・参加型のトラッキングやスポーツレジャーを提供している。③「文化施設」として、「済州民俗村博物館」や「済州島民族自然博物館」

など、広々とした敷地に屋外にまで自然史展示、民俗展示、岩石展示など、濟州島の人々の生活様式を学ぶことができる。④遊園地「家族の一体感」においては、2017年に開園した総合型テーマパークがある。そのテーマパークは「神話テーマパーク」と呼ばれ地元でも親しまれ、その敷地にはホテルやカジノ、ウォーターパークなど、いわゆる総合型リゾート（IR）である。

このように、濟州島観光をマーケティングプランのモデルに当てはめてみると、濟州島観光のポテンシャルの高さが伺える。また、濟州島は観光業によって支えられた島であり、沖縄観光が学ぶ点の多い成熟した観光マーケットであると考えられる。

#### 4. 海南島（中国）究極のリゾート観光

5つ基本計画（キーワード：アクセス整備、箱もの整備、多種多様性、官民一体）

海南島は、中華人民共和国海南省の大部分を占める。広東省雷州半島から、南方に位置する。東西約300km、南北約180kmで、面積は33,210km<sup>2</sup>で九州より少し小さい。人口は約925万人で、1988年に広東省から分離され、同時に経済特別区になった。その中でもプロジェクトチームが視察した三亜市は、海南島の南端に位置し、中国随一のビーチリゾートである。自然豊かな山と海に囲まれた恵まれた環境である。沖縄より南にあり熱帯海洋性モンスーン気候に属し、冬は暖かく夏は涼しく、年中緑豊かな世界を代表する避暑地である。2017年にニューヨークタイムズが「2017年訪れるべき52か所」の中で選ばれたこともあり、観光地とまた避暑地として世界のリゾートをリードしている。

また、文化的にも色濃く残されており、西はリー族自治県、北はミャオ族自治県、東は陵水黎族自治県、南は南シナ海に隣接しており、独自の文化を今もなお継承しながら海南島の魅力を生みだしている。

この魅力あふれる海南島、特に三亜市の観光に関する基本情報を報告する。

海南島の観光プロモーションにおいて5つの基本計画がある。①空路・海路の確保、②イベントの開催（国際会議を含む）、③メディアと企業との連携（世界的なメディアへのアプローチ）④文化継承の保持、⑤島内のアクセス整備などを基本計画の柱としている。

##### ① 空路・海路の確保（国主導）

年間観光客数は毎年前年度を上回り、2018年約1,814万人（中国人含む）であり、その内外国人は約70万人である。圧倒的に中国本国からの環境客が多いが、外国人観光客の5割がロシア人であることに驚きがあった。2004年に26カ国でビザが免除され、その後外国人観光客が増加している。ビザ免除は観光客の増加を図るとともに、人材確保という面からも非常に効果的だったようだ。

海南島では2か所の国際空港があり、第一空港として海口美蘭国際空港は海南航空のハブ空港であり、日本や韓国、台湾、インドネシアなど年間約820万人の乗客が利用している。2007年に国際線ターミナルができた三亜鳳凰国際空港は海南島の第二空港として国内線136

便、国際線23便が運航している。2020年までには拡張工事を終え、さらなる期待ができる。

港湾においても三亜湾の三亜鳳凰島国際クルーズ港は、開港以来540便以上のクルーズ客船が到着し、国内外の旅行者約100万人を迎えている。毎年前年度を上回る豪華客船が停泊地に加えている。

## ② イベントの開催

海南島三亜市では、数多くの大型ホテル（収容300人以上）があり、その内122軒が5つ星ホテルである。そのホテルでは、表4が示すように国際的な会議やイベント、博覧会などが開催されている。国家級と国際的なMICEの開催に選ばれる理由として、国際的イベント・マネージメントやホテル・マネージメントに優れた人材を確保していることがあげられる。北京、上海に次ぐMICE開催都市である。

表4 海南島三亜市MICEイベント・大会

主なMICEイベント・大会	
ボルボヨットレース	三亜国際ミスターボディビル大会
ワールドミス・コンテスト	三亜国際ミス・ビキニコンテスト
ワールド・ヘラクレス優勝戦	三亜国際マラソン
三亜レディース・オープン	天涯海角国際ウェディング祭り
三亜国際サイクリング・レース	国際ライフスタイル・ファッション展覧会

出所：三亜市旅遊局

## ③ メディアと政府と企業との連携

世界的なメディアへのアプローチを盛んに行っている。主に、中国中央テレビをはじめ、BBC（イギリス）、CNN（アメリカ）、DISCOVERYチャンネルなどで海南島の魅力を世界中にプロモーション映像を発信している。

政府レベルにおいても、26カ国とビザの免除の協定を結び、その内、長期滞在を可能に、ロシア、韓国、ドイツの国籍者においては、2人以上の団体で入国してから滞在時間21日まで延長することができ、さらにその他の23カ国では一般パスポートを所持する外国人は、5人以上の団体で最長15日間滞在することが可能である。

また、地元企業との連携では、とくに旅行業社や飲食業者、宿泊業者、お土産業者などとの定期会合や商品開発なども行われ、さらに、多言語対応のための言語教育機関とも連携を強化している。まさに官民一体で地方創生、地域活性化の成功事例を目の当たりにした。

## ④ 文化継承の保持

海南島は複数の民族グループが集まって居住している。それぞれの民族には独自の文化や

歴史があり、宗教においても、仏教、道教、イスラム教などそれぞれの宗教的なイベントも数多い(表5)。

表5 海南島の主な伝統的なイベントと開催日

主な伝統的なイベント・祭り	開催日
国際旅行文化祭	毎年異なる
三亜国際ビーチ音楽祭	毎年異なる
「二月二日」龍の日	旧暦二月二日
海南黎「三月三日」	旧暦三月三日
端午龍舟競技会	旧暦五月五日
中秋節	旧暦八月十五日
九九重陽祭り	旧暦九月九日
中国海南島カーニバル	毎年12月末

出所：三亜市旅遊局

食文化においても、民族色豊かであり、観光地で食べることが可能である。海南4大料理と呼ばれ、山の幸、海の幸を使った地元の食彩が堪能できることは大きな魅力の一つである。

#### ⑤ 島内のアクセス整備

観光地へのアクセスは旅行者において重要な事である。海南島では、鉄道や車、船、タクシー、バス、そして水上バスなど交通手段が充実している。本国から北京や上海、広州などからも多数の定期列車が運行している。島内では世界初の島内循環高速鉄道が利用でき、5時間程度で島を一周することができる。車では、海南環島高速道路全区間無料であり、さらに環境を意識している。近年では中国製電気自動車が主流であり、また、運転手付きキャンピングカーの需要が高まっている。

#### 5. おわりに

本調査では、沖縄の離島、とりわけ宮古島と八重山諸島を想定し、観光立島として成長著しい韓国の済州島、そして世界トップクラスにまで発展を遂げた海南島の取り組みを学ぶことができた。観光的な視点から様々な対策を財政や雇用、さらに医療や福祉などの関係について提示するにはこれまで以上の調査が必要である。しかし、済州島調査で「天恵の自然環境と投資ブーム」が人口増加の要因であることが明らかになったことは、今後、沖縄においても「世界自然遺産候補地」にあげられている今、世界自然遺産として価値あるものをめざし、中長期的な対策として人口増加や移住ブームの火付け役として大いに期待できる。従来の開発ではなく、自然保護の強化と整備にシフトする必要がある。

海南島では究極のリゾート都市（島）における、5つの基本計画から読み取れるように、各種イベントが開催可能な箱もの整備が充実しており、そこへのアクセスの環境整備とベネフィット感、さらにホテルや観光地では決して裏切らない贅沢で多種多様な非日常感を提供している。また、大自然との出会いや情緒あふれる民族伝統との触れ合いは、多文化の魅力を伝え観光客の満足度を高めている。

濟州島と海南島からの学びは、自然の恵みを最大に活かし、多文化、異文化を強調することによって地元の活性化に繋がり、遠隔性や狭小性といった不利な条件を克服していけるのではないだろうか。

#### 資料翻訳

與那覇美鈴（韓国語）

#### 参考資料・文献

石垣市建設部「石垣港長期構想の基本方向と空間利用計画案について」2015

浦本寛史「可能性あふれる離島経済のゆくえ」2020

沖縄経済同友会 報告書 2014

沖縄県企画部「離島関連資料」2018

経済研究所「アジア動向年報」2019

国道交通省「組織形成の強化」2015

濟州島観光公社「濟州特別自治道：観光客実態調査・外国人」2018

三亜市旅遊局「三亜、永遠のトロピカルパラダイス」2018

中央日報（日本語版）「毎月1600人余りが移民しに来る濟州道」2017

ボニータ・M・コルブ「都市観光のマーケティング」2007